

1年C組 社会科 単元設計・学習指導案

指導者 高橋 祐貴

1 日時（場所） 令和6年2月16日（金） 13:50～14:40（1年C組教室）

2 教科領域別研究テーマ

主権者意識を持ち、よりよい社会や自分の姿を構想する学習展開の工夫

3 研究テーマ設定の理由

これからの社会は未曾有の事象の連続で、VUCAの時代になると考えられている。そのような社会において、「激しく変化する社会に適応していくこと」はもちろん必要だが、それだけでは社会そのものを「よりよく」変革していくことは困難である。そこで求められるのは、「激しい変化に積極的に向き合い、よりよい社会や自分の姿を構想し、その実現のために行動していくこと」である。そして、そのような社会を創り出していく際の資質・能力の鍵となる概念として「エージェンシー」がある。エージェンシーは、「現代社会の諸課題について、自ら考え、主体的に行動して、責任を持って社会の変革を実現していく力」と捉えることができ、よりよい社会の実現のために多様な他者と連携、協働して課題解決を目指す上で不可欠なものである。それを身に付け、高めるためには、自分たちが選択・判断、構想したことが、実際の社会を改善したり変革したりすることができるという社会とのつながりを実感する学習を展開することが重要である。現実の社会的事象を扱うことのできる社会科の特性を生かし、自己の意見が社会に発信されたり、社会とつながったりして課題解決に貢献できるという自覚を高める学習を積み重ねていきたい。そうすることで、主権者としての意識を涵養していくとともに、「社会の変革を実現していく力」の育成に資すると考え、本研究テーマを設定した。

4 単元設計（単元名：地球を食べる緑の宝石！？～ブームの裏にひそむ真実を探れ～）

(1) 単元目標

- 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解することができる。 「知識及び技能」
- 国際的なアボカド取引の実態について様々な資料を基に考察することを通して、異なる国々や地域間の経済的な相互依存関係について理解することができる。 「知識及び技能」
- 国際的なアボカド取引に関わる国や地域に見られる地球的課題の要因や影響を、関係する国や地域の広がりや結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- 現代社会の様々な地域で見られる地球的課題について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ②国際的なアボカド取引の実態について様々な資料を基に考察することを通して、異なる国々や地域間の経済的な相互依存関係について理解している。	国際的なアボカド取引に関わる国や地域に見られる地球的課題の要因や影響を、関係する国や地域の広がりや結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	現代社会の様々な地域で見られる地球的課題について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(3) 指導計画（全5時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・アボカドに対する二つの呼び名（「グリーンゴールド」と「悪魔の果実」）の由来や違いについて話し合うことを通して、アボカドに対する関心を高め、単元を貫く学習問題を設定する。	態		・アボカドの消費が世界的に拡大している一方で、生産する国と消費する国の間に何らかの課題があることに気づき、近年の社会の変化の要因や影響について関心を高めたり、追究に向けての見通しを持ったりしようとしている。 (観察・ワークシート)
2	・学習問題に対する仮説を立て、それを追究・検証することを通して、アボカド生産国の実態や貿易国との関係性、生産国で現在生じている変化の要因や影響を明らかにする。	知① 思		・主要な生産国であるメキシコの自然や気候がアボカド栽培に与える影響や主要な消費国であるアメリカとの貿易について理解している。 (ワークシート) ・アボカド生産国と消費国の関係の変化にとともに生産国で生じる様々な変化の要因や影響について多面的・多角的に考察している。(ワークシート)
3 本時	・生産国と消費国の空間的相互依存関係などに着目して、前時に追究した変化の要因や影響を整理・分類することを通して、解決しなければならない課題を焦点化し、自分の言葉で表現することができる。	思		・生産国と消費国の空間的相互依存関係などに着目して、前時に追究した変化の要因や影響を整理・分類することを通して、アボカド産業や貿易にひそむ解決すべき課題を焦点化し、自分の言葉で表現している。 (ワークシート)
4	・課題の解決策について話し合うことを通して、特定の国の豊かさが優先されている依存関係の強さや複雑さについての理解を深め、持続可能なアボカド産業や貿易の実現に向けた地域の将来像について自分の考えを持ち、表現する。	思		・「妥当性（地域の実態（地域的特色）を反映しているか）」、「実現可能性（本当に実現することができるのか）」、「新たな問題の可能性（別の問題が生じることはないか）」の三つの視点で互いが提案した解決策について意見し合うことで、国同士の関係性についての理解を深め、アボカド産業や貿易の展望について、多面的・多角的に考察し、表現している。 (ワークシート)
5	・パフォーマンス課題 ・単元の学びを振り返ることを通して、世界の諸地域について学ぶ意義を自分なりに見いだす。また、各地域で顕在化する多様な地球的課題に対して、これまで働かせてきた見方・考え方を生かして追究しようとする。	知② 思 態	○ ○ ○	・アボカドを通して理解した「今後の開発や地域間の関係改善への課題」を、他の国や地域が関わる身近な事例に当てはめて説明している。 ・地球的課題の要因や影響を、国や地域の広がりや結び付きなどに着目して、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・地球的課題に対して自分とのつながりを自覚し、主体的に追究しようとしている。 (パフォーマンス評価)

(4) パフォーマンス課題

※以下に示すのは課題の概要である。詳細は配付資料を参照。

ある日、私の目に飛び込んできた「アボカドは悪魔の果実」というニュースの見出し。その背景を調べると見えてくるアボカドをめぐる複雑に絡み合う事情。それを知った私は、アボカドとその関わる人々の未来をよりよいものするための提案を、勤務する会社内で行うことを決意した。提案方法はプレゼン資料の作成で、次の二つの要素を含めたい。

①同様の「課題」が考えられるアボカドとは異なる農産物を提示して「課題」の実態を説明

②「課題」を踏まえて日本としてアボカド産業や貿易にどのように関わるべきかの説明

アボカドは人を幸せにする「緑の宝石」なはずなのだ。今私たちは何をすべきなのだろう。

5 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

事前アンケートから生徒の実態を分析すると、「地域学習を行う意義を感じている生徒が少ない」という課題が明らかになった。『世界の諸地域』の学習で印象に残っていることは何か？という項目では、EU の存在やアフリカの国々で顕著なモノカルチャー経済の実態など、日本とは異なる特色について述べた生徒が多く、学習を通して様々な知識を習得したことを見取することはできた。しかし、『世界の諸地域』について学ぶ意義について説明することができるか？という項目では、およそ2割の生徒が「分からない」と回答した。世界の様々な地域について、学ぶことの意義を見いだせなければ、事象同士の関連性を捉えようとしたり、地球的課題の要因や影響について熟考しようとしたりする中で身に付けた知識や技能を、実生活で生きて働くものへと高めていくことは難しい。そうなれば、この先の未来の「よりよさ」を追究しようとする意欲や地球的課題に対する切実性が高まらなないと考える。そこで、自分と社会をつなぐことができる（またはつながりを実感できる）教材開発や単元構想を工夫したりすることで、よりよい社会やそこに生きる自分の姿について主体的に考えようとする生徒の育成を目指す。

(2) 単元について

本単元は、中項目「世界の諸地域」の終末に位置付けて実施するものである。それまでの六つの州の学習の全体を通して得られた学びを生かして、地球的課題の要因や影響を考察させることで、「世界の諸地域について学ぶ意義」を見いだせるようになることを目指す。六つの州を学習する際には、「各州の地域的特色の理解→地球的課題の考察」という展開で進めたが、本単元では「アボカド」という身近なものをきっかけに「生徒自身が課題に気づき、既習の地域的特色を活用しながらその解決に必要なことを見いだすこと」ができるように単元を構成する。アボカドは、日本では美容・健康フードとして人気が高まり、世界的に最も急激に消費が拡大した果実とも言われている。アボカド生産や消費の実態を追究していくと、「どこかの人々の『豊かさ』を実現するために、別のどこかで生じている急速な社会の変化」を具体的に理解することができ、そこから今後の開発や地域間の関係改善への課題に気付かせたい。本単元の学習を通して、既存の産業や貿易の在り方を変革することの必要性を見だし、実現のために必要な視点を生徒自身が広げ、深めることができると考え、中心的な教材として扱うことにした。

(3) 指導について

ア 地球的課題に対して「切実性」を実感できる単元構成の工夫

よりよい社会の姿を構想しようとする生徒を育成するためには、社会に見られる様々な課題に対して「自分が考えなければいけないことだ」という実感を持たせることが大切である。そこで、本単元では、初めにアボカドをめぐる課題の存在に気づき、近年の生産国に見られる変化の要因や影響を理解するには何をどのように調べればよいかを考えて追究するという生徒の疑問や予想を基にした学習活動を展開する。また、解決すべき課題を焦点化する際（第3時）には、生徒が地理的な見方・考え方を働かせて思考し、課題を捉えられるように教師の問い掛けを工夫する。このような工夫を単元の随所で積み重ねることで、一つの課題から日本を含む様々な国の関係性が見えたり、その関係には偏りが見られたりするなど、課題と自分とのつながりを自覚できるよう促したい。また、課題の解決に向けて考えていく中で、地理的分野の学習で得られた学びだけでは説明できない部分が多いことにも気づき、他分野の学習への見通しを持ったり学びの意義を感じたりできるようになることを目指したい。

イ 「協働する他者」や「自己調整を促す手段」としての生成 AI の活用

「世界の諸地域」の単元を通して、よりよい問題解決を行ったり、メタ認知の力を高めたりするために、生成 AI を様々な学習場面で活用している。本単元では、生成 AI を、解決すべき課題を焦点化する場面（第3時）や課題の解決に向けて話し合う場面（第4時）で、提案した内容を生徒自身で検証するために活用する。生徒に行った質問と同様のものに対する生成 AI の回答と自分の提案を比較して、共通点や相違点などを吟味・検討させることにより、生徒自身が自らの考えに改めて確信を持ったり、さらに追究が必要な視点や内容に気付いたりできるようになることを目指す。生成 AI を活用する際には、得られる回答は一つの情報に過ぎず、それを生かして自ら考えを深めていく必要があることや、情報そのものの正確性や信頼性を常に確認するように指導することが重要だと考えている。

6 本時の指導（3／5時間）

(1) 主題 アボカドから見えてくる課題を明らかにして、解決に何が必要かを考えよう

(2) ねらい

○生産国と消費国の空間的相互依存関係などに着目して、前時に追究した変化の要因や影響を整理・分類することを通して、アボカド産業や貿易にひそむ解決すべき課題を焦点化し、自分の言葉で表現している。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・ 予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 生産国と消費国の実態を確認する。（一斉）	5	○アボカドはどこで生産され、どこで消費されているだろう。 ・中南米が主な生産地域で、特にメキシコが盛ん。 ・アメリカが最大の消費国である。 ・日本もアメリカも最大の輸入相手国はメキシコ。	○本時に扱う国や地域の位置関係を把握させるために、白地図に該当する国の位置を示す。
2 学習課題を確認する。（一斉）	2	アボカド産業や貿易には、どのような課題がひそんでいるのだろうか。	
3 メキシコの変化から社会の課題を捉える。 (小集団→全体) (1)変化の要因や影響の共有 (2)変化の要因や影響を整理・分類 (3)複数の情報を関連付けて課題の考察	30 (15) (5) (10)	○メキシコでは、今何が起こっていて、なぜそのような状況になっているのだろう。 ・森林伐採や水不足が深刻化している。それは、アボカドを生産するための資源を確保するため。 ・メキシコ人がアボカドを容易に入手できなくなっている。取引価格が上がり、購入しにくくなっているから。 ○メキシコで見られる近年の様々な変化は、どのようにグルーピングできるだろう。 ・環境のこと、経済のことなどに分けられそう。 ・「社会問題の増加」ともまとめられそうだ。 ○アボカド産業や貿易をめぐる、最も根本にある課題だと考えられるのは一体何なのだろう。 ・森林が勝手に伐採されたり、価格が上がったりしたのも消費国の需要が急増したことが原因だ。 ・消費する国の立場の方が強く、その要求に生産する国が応えるような関係になっている。 ・環境に負荷がかかっているのは、経済的な利益が最優先になっているからだ。	○相互依存や協力、競合などの様々な関係を浮き彫りにするために、国や地域同士の関係性に着目した問い掛けを行う。 ○追究成果を見直し、より多様な視点から要因や影響を捉えさせるために、生成AIの情報を提示して共有させる。 ○今後の地域の開発や地域間の関係改善のための課題を焦点化させるために、空間的な関係性の要因について考察させる。
4 同様な課題が考えられる事例を確認する。 (全体)	8	○これまでの学習で、本時で見いだした課題が当てはまる事例にはどのようなものがあるだろう。 ・アフリカ州のカカオ豆の貿易でも同じことが言えそう。 ・南アメリカ州では大豆の栽培が急増していたと思う。	○見いだした課題への理解を深めるために、アボカド以外の農産物と課題の関連についてこれまでの地域の学習振り返って考えさせる。
5 本時の振り返りを行う。 (個人)	5	○今、みなさんはアボカドを通して何が見えるだろう。 ・豊かな生活を望む国とその豊かさの実現ために環境破壊や人々の搾取などに悩まされている国があり、国同士のバランスの崩れなど解決すべき課題があること。	◎多様な視点の情報を基に課題を焦点化し、自分の言葉で表現している。 (ワークシート)

7 研究の視点

○見方・考え方に着目した問い掛けを工夫することは、解決すべき「課題」を地理的に捉える上で有効だったか。

○ロイロノートの共有ノートや生成AIなどのICTの活用方法は、生徒自身が考えを見直したり、思考を広げ、深めたりする上で効果的であったか。

〈パフォーマンス課題の案 全文 ver.〉

緑の濃淡が美しいアボカド。その滑らかなクリームのような舌触りと、やさしい味わいには多くのファンがいる。新入社員として国際アボカド貿易株式会社「アボトレード」に入社した私も、その一人だ。毎日の食事にアボカドを欠かさず、その健康効果や美味しさに魅了されていた。ある日、私の目に飛び込んできた「アボカドは悪魔の果実」というニュースの見出しの言葉。その背景を調べると、生産地の深刻な環境破壊、治安の悪化などの社会問題、そして貿易をめぐる国同士のいびつな関係性など様々な事情が絡んでいることを知る。私の愛するアボカドの裏側がこんなに複雑なものだったなんて…。私は真実を知り、アボカドとその関わる人々の未来をよりよいものするための提案を社内で行うことを決意した。

提案には「プレゼン資料」の作成が必要だ。より多くの人々が納得できる提案にするためにはどうすればよいだろう。…そうだ！次の二つを含んで資料を準備していこう。

①この前、同様の「課題」を抱える別の農産物を扱う会社と話をしたことを思い出した。アボカドとは異なる農産物をめぐる「課題」(品目名、関係する国など)の実態を説明に加え、「課題」の深刻さを伝えよう。

②アボカドを消費する側の日本として、生産する国との間で生じている「課題」を理解した上で今後どのような関わりが必要なのか、そして、その関わりを実現するために必要になることは何か、について考えを述べよう。

私は、アボカドは「悪魔の…」ではなく、様々な立場の人が幸せを感じられる「緑の宝石」であってほしいんだ！この思いが伝わるよう絶対にこの提案、成功させてやる！！